令和5年度 第2回 平野区教育会議 会議録

日時：令和5年11月15日（水曜日）19:00～20:15

場所：平野区役所 1階 研修室

出席者：【委員】

砂川委員 渡辺委員 水原委員 加賀委員 野田委員

浦崎委員 藤本委員 大森委員

【オブザーバー】

谷塚 加美中学校校長 兵庫 川辺小学校校長

堂前 加美北幼稚園園長

【平野区】

武市 区長 堀川 子育て支援担当課長 樋口 政策推進課長

星野 政策推進課長代理 上原 担当係長 塚本

○平野区長・平野担当教育次長あいさつ

○議長、副議長選出

○委員の皆様のご自己紹介と皆様考える平野区の教育課題

○平野区の現在の教育施策の紹介

・ひらのく読書運動

・その他の平野区教育事業

○意見交換

○樋口政策推進課長

皆様こんばんは。定刻になりましたので、令和5年度第2回平野区教育会議を開催させていただきます。

私は本日の司会進行をさせていただきます平野区役所政策推進課長の樋口と申します。よろしくお願いいたします。

本日はご多忙中にもかかわらず、また夜間の時間帯にご出席いただきまして誠にありがとうございます。皆様方には、この度平野区の教育会議委員を新たに、また引き続きご就任いただき誠にありがとうございます。

それでは会議開催に先立ちまして、武市区長からごあいさつ申し上げます。

○武市区長

平野区長の武市でございます。よろしくお願いいたします。

現在各学校の校長先生のお話を順番に小・中と聞かせていただいているところでございます。学校現場も運動会や遠足など制限なく実施出来ており、日々の日常を取り戻しつつあるとお聞きしております。

本日は、委員の皆様方もそれぞれのお立場でお忙しいところ、お時間をいただき本当にありがとうございます。今回、委員の改選ということで、7人の方が新しく委員をお引き受けいただきました。本当にありがとうございます。

この教育会議は、地域に身近な区役所が教育委員会とともに、保護者や区民のご意見をお聞きしながら、分権型教育行政を進めていくもので、平成27年度からスタートしております。平野区教育会議では、これまでも委員の皆様方の様々なご意見をいただきまして、「読書ノートを中心とした読書運動」ですとか、「がんばる小学生・がんばる中学生の区長表彰制度」、「いのちの教育」など、平野区独自の教育支援策を実施してまいりました。今回新しい委員の方が多く参加されるということで、新しい視点でのご提案をいただければ幸いです。

平野区では、お手元の資料にもありますように、平成26年に平野区に関わる全ての方が子どもたちのためにそれぞれの立場や分野で取り組んでいく、「平野区の子どもたちを元気にする宣言」を作成しております。40周年の記念ロゴが入っており、9年前ということになります。来年度に平野区政50周年を迎えるということで新し

いロゴも作ったところではございますけれども、この宣言は10年近く経過しましたが、全く古い感じはなく、今も私たちは、この宣言をとっても大切にしたいと考えております。

平成29年にはこの宣言の内容をもとに、平野区のこどもたちを支える「こどもたちの生きる力育成プロジェクト+10」を作成し、切れ目のない子育て支援を進めているところです。

また今現在、各学校で行われているSDGsの取組を区民の方に広く知っていただくために、「広報ひらの」や区役所ホームページなどで昨年度から紹介をいたしまして、たくさんの反響をいただいているところでございます。

一昨年度末に、PTAさんから区役所を通して学校にたくさんの本をいただきました。その紹介をしたことをきっかけに、平野区の住みます芸人、「翠星チークダンス」という若手芸人、もう若手でもあまりなくなってきましたけれども、昔、書評漫才をしており、読書が好きでもありますので、その住みます芸人さんがおすすめ図書を紹介するコーナーも「広報ひらの」に掲載しております。

地域のニーズや課題などに迅速に対応できるように、「つながる平野」をコンセプトに、区役所といたしましても多くの皆様とのつながりを大切にしながら、様々なことに取り組んでまいりたいと思っております。この会議がその連携を深めるための有効な時間となりますように、活発なご議論を、どうぞよろしくお願いいたします。

○樋口政策推進課長

それではまず、平野区教育会議につきまして、簡単に概要をご説明させていただきます。資料でお配りしてあります「平野区教育会議開催要綱」、お手元にあるかと思いますのでそちらもご参照ください。

教育行政の推進にあたりましては、先ほど区長のあいさつにもございましたが、「ニア・イズ・ベター」に基づきまして、地域に身近な区役所が教育委員会とともに、保護者や区民等の声を汲みながら施策を実施する、分権型教育行政というものを大阪

市は進めております。

区長は、教育委員会事務局の区担当教育次長を兼任しておりまして、区内における教育長の一定の権限と責任を分担し、また副区長以下、私ども教育担当の職員も教育委員会事務局職員を兼務しております。

分権型教育行政を推進するために、区役所においては保護者、地域住民の方々、校長先生など、多様なお意見・ニーズを汲み取る仕組みを構築することとされており、この教育会議は、その仕組みの一つとして平成27年10月に発足いたしました。

要綱の第一条には、本会議の目的が規定されておりますのでご確認ください。

また要綱第三条には、委員に関する規定がありまして、教育会議委員は保護者、地域住民、学識経験者から区担当教育次長が選定することとされております。この度は大森委員、宮本委員の2名につきましては引き続きご就任いただいております。7名の委員の皆様には、今回新たにご就任いただきました。今後2年間の任期となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、平野区教育会議は原則公開の会議となっております。一般の方の傍聴や報道機関の取材も可能となっております。

また、会議内容は、区役所ホームページ等で公開する必要があることから、会議の録音をさせていただいておりますのでご了承ください。なお、本日は傍聴並びに報道機関の取材はございません。

それでは、本会議の議長及び副議長の選出に移らせていただきます。平野区教育会議開催要綱第六条第一項により、委員の方々の互選により議長及び副議長を選任いただくこととなっております。

まずは、どなたか立候補または推薦される方はございませんでしょうか。いかがでしょうか。

—立候補並びに推薦なし—

ないようですので、事務局案をご提案させていただいてもよろしいでしょうか。

—異議なしの声—

それでは、議長には前期にも当会議の議長を務めていただきました常盤会学園大学の
大森委員を引き続きご推薦したいと思いますが皆様いかがでしょうか。よろしいで
しょうか。

—異議なしの声—

ありがとうございます。

それでは、次に副議長でございますが、大森議長、どなたかご推薦はございませ
ん
でしょうか。

○大森議長

事務局から今回の委員さんの略歴をお聞きしまして、生涯学習推進員として学校現
場をととてもよく知っておられる野田様。この方は前回の副議長をされていた箱谷さん
からも野田様が適任とお聞きしておりますので、野田様を副議長にご推薦したいと思
います。

○樋口政策推進課長

野田委員、よろしいでしょうか。

○野田委員

微力ですけども、受けさせていただきます。

○大森議長

ありがとうございます。

○樋口政策推進課長

ありがとうございます。それでは副議長は野田委員にお願いしたいと存じます。皆
様よろしいでしょうか。

—異議なしの声—

ありがとうございます。

それでは、議長には常盤会学園大学の森委員、また副議長には生涯学習推進委員協議会の野田委員が選出されました。

それでは、これ以降の議事進行につきましては、森議長をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

○大森議長

はい。それでは微力ですが、議長を務めさせていただきます。

今回、この会議が最初ということで、所属団体でのお仕事など、簡単な自己紹介と皆様方が考える平野区の教育課題について思っておられることを話していただけたらと思います。時間の関係もありますので、お一人様3分から4分ぐらいで、お願いしたいと思います。

それではまず、副議長の野田様からお願いしてもよろしいでしょうか。

○野田副議長

私、生涯学習推進員協議会平野区連絡会の副委員長をさせていただきます。

生涯学習は、各小学校の空き時間・空き教室を利用させていただいて、地域の方がいろんな趣味ややりたいことを、5名以上集まったら1講座開けますので、そういう活動のサポートをしています。

教育課題についてですが、私は今、中学校の特別支援教育のサポーターもしております。今の1、2、3年生を見ていますと、中学生の学力の低下、主に読解力とか語彙力がすごく低下しているように感じます。この3学年全てが小学校の中・高学年のときにちょうどコロナ禍で対面の授業をなかなか受けることが出来ておりません。リモートである程度のことにはしていただいたかとは思いますが。

今は、タブレットとかスマホで、こどもが簡単にものごとを調べられるので、活字を見て小説を読むとか、ものを調べるとかの機会がすごく減っていると思うんです。

先ほど学校図書の実を区長さんがおっしゃっていただきましたが、各小学校・中学校ともたくさんの蔵書があります。それをどうにか活用していただけるように、学

校の授業でも週に1回ぐらいは取り入れていただいているところもあるかと思いますが、そういう活動にもっと目を向けていっていただいたら、区が推進されてる読書運動にもつながっていくと思います。

以上でございます。

○大森議長

ありがとうございました。主に学力低下に関連して読書運動、本の活用ということ
を述べられました。

続いて砂川様よろしくお願いたします。

○砂川委員

主任児童委員平野区代表の砂川です。

主任児童委員は民生委員の中の特別職で、自分は一応民生委員という職ではありませんが、生活保護の方とか障がい者の方とか外国人居住者関連の仕事は殆どしておりません。特別職として、専任して行っているのは児童の問題です。児童虐待とか、あと不適切養育ですね。

自分は主任児童委員になって今年で丸14年になります。この14年の間で行政との関係もずいぶん変わりました、新しい仕組みができ、情報開示の仕方とか、14年前と比べるとかなり良くなっています。今日も実は昼間喜連中学校で会議があり、学校と区役所と地域が、もっと協力し合って、しんどい家庭とか危険な状態にあるこどもの力になれるように、その仕組みをもっと良くしていくために、自分が考えることは意見としては言っていきたいと思います。

児童虐待は、虐待単体では存在しにくく、必ず複合的な別の要素があります。生活困窮や発達障がい、精神疾患、あとステップファミリーといまして、母子家庭だったんですけれど新しいお父さんが一緒に住むようになったとか、そういうところで複合的な要素として起こることが非常に多いです。だからこれは周りから見守ることが非常に重要だと考えています。それを考えていく中で、これは多分言っても仕方がな

いんだろうと思うんですけど、仕組みをもっと良くしていくってところで考えると、例えば指定外登校という制度が本当に必要なのかとか、それを悪用されてる事例もかなりあると考えますので、うまく機能しなくなったときにどうするかということ、もっと真剣に行政サイドで考えないといけないのではないかと考えています。

以上です。

○大森議長

ありがとうございました。児童虐待についてお話ししていただきました。

それでは続きまして藤本様お願いいたします。

○藤本委員

平野ドライビングスクールの藤本と申します。このような場に公募委員として参加させていただきまして、非常にうれしく思います。ありがとうございます。

私、平野ドライビングスクールでは取締役営業部長ということで、教習生を確保する取組を行っており、多くの企業さんや学校さんを回らせていただいております。

平野ドライビングスクールに働いて、まだ3年目でして、その前は大阪府庁で二十数年公務員をしておりました。前職では主にインフラ整備など、まちづくりに携わっており、退職する前は秘書課で大阪都構想の住民投票などにも関わっていました。

平野ドライビングスクールは、自動車免許の取得という点におきましては公共性の高いお仕事ですので、前職とは少し共通の部分があり、地域から愛される、地域に必要とされる、地域に貢献できる企業になりたいという気持ちで取り組んでいきたいと思っております。

また、前職時代に緑の取組、緑化の取組として、NPO法人の「梅田ミツバチプロジェクト」という団体の副代表もしておりまして、「都市養蜂」というミツバチを都会で飼って環境を良くしていく取組を行っていました。市内では、梅田茶屋町のヤンマーホールディングスの屋上をメインに行い、他にも、四天王寺の五重塔とか、服部緑地でも飼っています。ハチミツを売って、利益にするのではなく、ミツバチによる

受粉によって食物ができて、それを我々が食べるという食の連鎖によるありがたさ、食の大切さ、命の大切さ、環境に関心を持っていただけるような取組として、NPO活動を行っています。

平野区でも9月に瓜破西小学校で「生物多様性」というテーマで、出前授業をさせていただきました。そういった関わりから今回、教育委員に公募させていただいたというのが経緯でございます。

平野区の教育課題では、まだ平野区に戻ってきてから日が浅いため知識はあまりないのですが、私が思う行政と地域のあり方は、新しいなにかに取り組んでいくというよりは、既存のストックを使って、この元気にする宣言にもあるように、たくさんの人との関わりが大切だと思います。例えば、教習所には空き教室や広いコースがあります。バブルのときに右肩上がりの時代に合わせて造られた施設ですので、非常に余裕というか余ってるところがあり、そういったところを地域の皆さんに開放させていただいて、何かに活用いただくとか、そこでこどもの居場所じゃないですけども、お子さんに何かさせていただいたりすることが出来る。集まっている人も、大学生や高校生など、若い人たちが多くいますので、そういう場としても地域の皆様と一緒に何かできればと思っております。

具体的には今後勉強させていただきまして、この場で何かご提案できればという思いでございます。よろしく願いいたします。

○大森議長

ありがとうございました。人との関わりということで、またミツバチから環境を良くしていく取組についてもご紹介いただきました。

それでは続きまして浦崎様。

○浦崎委員

失礼します。一般社団法人平野産業会専務理事をしています浦崎です。

元々大阪市の教員で、今は生野未来学園に変わっていますが、西生野小学校の校長

と岸里小学校の校長を経験し、退職して、今現在の職に就いています。縁あって全く違う仕事をしていますが、区政会議にも4年間、委員として平野産業会から出席させていただいて、平野区の教育に関する取組などを4年間ずっと聞かせていただき、意見も述べさせていただきました。

その中でやはり気になったのは、要保護児童の数とか、先だってもテレビでも取り上げていましたが不登校児童の数、小学校の状況として、不登校の児童さんが各学校に何名かいらっしゃることは、今も現場の校長先生方とつながりがありますので、そうしたお話も聞かせていただくことが多くあります。

平野産業会は、物を作る会社さんが集まっているところですが、11月25日にコミュニティセンターで産業交流フェアを開きます。昨年から物づくり的なことをこどもたちに体験させるコーナーを増やしていきたいという話になりました。平野区の場合には、要保護児童のこどもさんが多いこと、大阪市全体で学力の問題もありますので、考える力を育てていくには、こうした体験的な活動ができるだけ多くあれば良いと感じています。

今回は、コミュニティセンターで産業交流フェアを開きますが、そこで様々な物づくりの会社さんがこどもさん向けにブースを出していただけます。土曜日のため小学校の先生方が引率するのは無理ですので、いきいき事業の方にもお願いして校外活動として、こどもたちに体験させる話を今進めております。

元々平野区で生まれ育った人間ですし、また長く教育に関わりましたので、区政会議で4年間お手伝いさせていただいた続きが少しでもできればと、今回こちらのほうに参加させていただくことにしました。よろしく願いいたします。

○大森議長

不登校の問題、また学力、考える力をつけるために体験的な活動の場を大事にしたいということだと思います。

続きまして加賀様お願いいたします。

○加賀委員

こんばんは。大阪平野ロータリークラブから参りました加賀心太と申します。今期社会奉仕委員長ということで、2年間、この教育会議に参加させていただきます。よろしく申し上げます。

教育課題ですが、正直僕は勉強というものから逃げてきた人生を送ってきた人間なので、この場にいるのが良いのかというところもあります。しかし、昨年10月に上原さんとお話しさせていただいたときに、平野区の読解力をあげるために読書活動をされていることを伺いして、僕はどっちかという勉強とかしてこなかったタイプの人間なので、勉強しない子の気持ちが分かるというか、そういった面で教育のことを考えていたらなと思っております。よろしく願いいたします。

○大森議長

ありがとうございます。勉強から逃げてきた子の気持ちが分かるということをおっしゃられました。大事なことだと思います。

では水原様お願いいたします。

○水原委員

こんばんは。平野区PTA協議会の副会長で、喜連西小学校のPTAの副会長をしています。水原です。私もこういう正式な会議に普段あまり出ることがないため少し緊張しています。

こどもが今、小学校6年生、5年生、2年生と3人います。次、中学生に上がるので、先日この学校案内が、校区内の学校の案内とともに届きました。

教育に関する課題ですが、学校のことに関して無関心だと感じてしまう親がとても多いように思えます。先生が一生懸命プリントなどを作って周知しようとしてくれていても、「知らん」、「知らんかった」みたいなことを言われることがとても多いです。紙ベースでの連絡プリントたくさん配られますが、「え、もらってないよ」っていうこともすごくあって。兄弟3人とも、栄養だよりなどは持ってくるんですけど、

なぜか重要な書類になると、一番下の子だけが持って来ます。

そういう重要なプリントだけでも、メールでPDF配布できたら保護者も見るのはと思います。出欠のプリントも、出してくださいって言ったら、もらっていないとの回答が多くて、もう少しうまく連絡が取れたらいいと思います。

あと、読書ノートですが、うちのこどもたちもすごくいっぱい何か書いてました。何かもらうためにやってるとか言ってて、見たら家にある本をちょっと読んだだけとかで書いています。ページ数が大事だと、字の数が少ない本をいっぱい読んで書きまくってました。それでも良いのですか？ 大丈夫ですか？

○上原担当係長

読書ノートの導入時にその話は出ましたが、そこはそれぞれのこどもさんを信じるということにしました。

○水原委員

ただ、本を読むことはすごく好きで、図書室もすごく行ってるこどもも多いですね。うちの小学校の子たち、読書ノートをこうやって持ってくるのを見るので、だから本人は本に触れていけるのかなと思います。ただ文字を読んでものかどうかはちょっと際どいなと思うんですけども、もっとみんなが文字に触れたり本を読んで、本からいろいろ知識をつけてもらうっていうのも、私たち親のほうからも進めていければと思います。

以上です。

○大森議長

ありがとうございます。プリントを出さないことが多いということでね、学校がもう少し工夫できないでしょうかと。それと読書ですね、そのことが話題に共通してあるかなと思います。先ほど野田さんも大きな文字からでも、活字に触れることと言われていましたよね。そこから始めたらいいいのかなと思います。

では渡辺様お願いいたします。

○渡辺委員

平野区PTA協議会会長をさせていただいています。渡辺利之といいます。

僕も今年縁があってこういう形の会長職に就かせていただきました。僕のところもこどもがちょっと多くて、7人、いてるんですね。その関係で小学校とは、15年の関わりがあります。その中で言わせていただくと、学校の先生がこどもに対してすごく、何ていうんでしょうね、昔は接点がすごく多かったのですが、今はちょっとよそよそしいなど。こどもに対して少し距離を置いてる気がします。

昔の良い部分が全く見られなくなってるような節が多々ありました。こどもたちも、昔みたいに先生に懐いてるような、そういう部分が見受けられないなっていうのがすごく感じた部分です。

僕は新平野西小学校のPTAの会長もしており、こどもたちのために夏祭りを毎年開催していますが、そこに対しても先生方の協力、ほとんどないです。話を聞くと、働き方改革があって休日に先生を動員することができないとか、そういう話もちらっと耳に入ったんですよ。こどもたちのために何かをしてあげよう、教育のために何かしてあげようというのがPTAではないのかと。PTAのTの部分がすごく離れてしまったような感覚をちらっと感じています。

先生がこどもたちに対してやってもらってる部分について、昔と今と比べると学力低下につながるような節もあるんじゃないかなと。コロナ前の部分でいうと先生と生徒が結構仲がよかった。これがコロナ後になると、お互い距離を持ったような関係。なんかそういうところが見えてちょっと嫌な感じがしたなど。うちの学校もそうなんですけども、そういう部分をすごく感じた半年かなと。今、そういうふうに思っています。これが変えれたらすごくいいんじゃないかなと思ってちょっと期待しています。

以上です。ありがとうございました。

○大森議長

PTA会長のほうから、かつて熱中先生とか、そういうドラマもヒットしていたの

は私の若い頃ですけども。

○渡辺委員

学校に1人ぐらいはそういう、何て言うんでしょう、教育熱心な先生がいたのが、ここ最近ではちょっと見受けられない。異動が多いのもあるのかもしれないですけど。やはり1人ぐらいはいてほしいというのはすごく感じますね。

○大森議長

そうですね。教育について、教師のあり方、それが働き方改革でなかなかできないという、そのジレンマといいますか、矛盾みたいなことがあるんですけど、また皆さんご意見をお聞かせしていただけたらと思います。

今、渡辺様まで一通り皆様のご紹介と平野区の教育課題についてご意見いただきました。皆様のほうでもう少しそこを詳しく聞きたいというようなことありましたらどうぞ。特に学力とつながって読書ということも話題になりましたし、児童虐待、それから不登校ということも話題になっています。そのようなところからでも何かございましたら。よろしいでしょうか。また後ほどご意見交流もしたいと思いますので。

では続きまして、平野区の教育政策について説明をお願いしたいと思います。

○上原担当係長

それでは皆様こんばんは。平野区役所の上原です。

2項目を簡単に説明させていただきます。4ページをご覧ください。

平野区の読書運動でございます。平野区の読書運動は平成28年度に教育会議、この教育会議での提案を受け事業構築を行い、平成29年度に小学校から実施いたしました。地方自治体が地域図書館、公立小学校と共催し、1万人近い小学校の全児童に読書ノートを配布し読書運動を行うのは日本で初めての試みであり、当時産経新聞や朝日新聞等にも掲載されました。翌年度には市立幼稚園、市立中学校にも対象を拡大しました。

なお、中学生の読書ノートにつきましては、令和元年度から大阪平野ロータリーク

ラブ様に作成いただき、区役所に寄贈していただいております。

また教育会議での本、特に絵本は高価で購入が難しい家庭もあるので、区で気軽に本を貸出しできる制度をつくるべきとのご意見から、平成29年度から区役所で寄贈を受けた図書を手続きなし、無期限で貸し出す「ひらちゃん図書の自由貸出し」を行っております。寄贈された本は令和5年7月時点で、7,410冊になります。

次に「平野区政会議こども教育グループ」、先ほど浦崎委員のご意見にもありましたが、この区政会議で、平野図書館が区の北側に位置しているため、瓜破や長吉のこども、特に幼児のいる家庭は図書館に行くことが難しいため、絵本展を開催してほしいとの要望を受けまして、平成30年度から長吉と瓜破で絵本展を開催しております。

また、「学校協議会委員と区長との意見交換会」の中で、読書ノートの成果は、各校の図書ボランティアの助力が大きいため、その感謝を込めた表彰制度を設けるべきとのご意見から、平成31年1月から図書ボランティアの表彰も行っております。

さらに、教育会議委員からの児童生徒に読書の大切さを伝えることは学校で可能ですが、保護者に伝えることは難しい。そこで、区が広報紙等で区民に幅広く読書の大切さを伝えるべきとのご意見から、平成29年4月以降、「広報ひらの」で定期的に紹介し、令和4年8月以降は区長のあいさつにもありましたが、住みます芸人が紹介する、おすすめ図書を毎月掲載しております。

このように、平野区では読書ノートを中心とした読書運動を平成28年以降続けてまいりました。5ページの資料にございますように、昨年度の表彰率は24.9%になりました。4人に1人が表彰されております。区で読書ノートの取組を始める以前、学校単位で読書ノート同様の取組を行っている学校が複数ございましたが、その際の表彰率が5%程度であったことを考えますと、区で音頭をとり、全校で行うことで大幅に達成者が増えております。

読書が楽しいと1人でも多くのこどもに答えていただきますように、平野区としても努力してまいりますので、アイデア等ございましたらお聞かせいただきたくお願い

申しあげます。

また、前回会議で箱谷委員から「小学校単独で数校で実施されておりますビブリオバトルを区政50周年と合わせ、ご参加いただける学校を募り、平野区全体で開催しては」、とのご意見がございました。本件につきましては現在区役所等で検討を進めております。新平野西小学校さんも、ビブリオバトルを開催されている小学校の一つです。

次に、その他の平野区の教育事業についてご説明いたします。6ページをご覧ください。

まず、「がんばる小学生・がんばる中学生区長表彰制度」でございます。大人から受けた褒め言葉や感謝の気持ちは、自身の貴重な成功体験となり、のちの成長に好影響をもたらします。校内や地域の清掃活動やあいさつなど、児童生徒が継続的に頑張った行いを区長が表彰する制度でございます。7ページに昨年度の表彰内容を記載しております。

続きまして、「見守り隊の区長表彰制度」。小学生の通学を日々見守っていただいている地域のボランティアの方々に、学校からだけでなく区役所からも表彰するもので、こちらは学校からの要望を受けて制度化しました。

3番目、「ゲストティーチャー制度」。身近な大人に仕事の意義や楽しさを語っていただき、将来の自立の目標づけとなる機会を提供しております。資料9ページにございますように、食品サンプルの製造体験や戦争体験者による「平和学習」のほか、先ほど加賀委員様のご発言にもありましたが、学生時代成績が良くなくても頑張っただけで成功した方の体験談も行ってしております。また浦崎委員も制度設立時からゲストティーチャーとして登録されております。さらに、選択肢を増やすため、吉本興業さんやラグビーチームレッドハリケーンズ、阪神高速道路株式会社、また藤本委員が副理事長を務められております梅田ミツバチプロジェクトなど、新しい協力パートナーを開拓し、学校に紹介しております。

4 番目、「いのちの教育」。若年妊娠による将来設計の困難さから生じる貧困とその連鎖を防ぐため、地域の病院や助産師等の協力を得て、出産など「いのち」にまつわる講義を行っております。

続きまして5番目、「こども学力サポート事業」。学力向上支援のため、小学校に学生等を指導員として派遣し、学習支援を行っております。現在30名の方の登録があり、うち18名が学生です。人材確保が課題となっておりますが、常盤会学園大学さまのご協力で、大学別で最も多い5人の学生が登録されております。常盤会学園大学の学生様には、次の英語スピーチコンテスト並びにこどもの「生きる力」育成支援事業でもご協力をいただいております。

6番目、「小学生・中学生英語スピーチコンテスト」。毎年秋に常盤会学園大学と共催で実施しております。年々レベルアップし参加者数も増えております。18日、この土曜日に決勝が行われます。

7番目、「こどもの生きる力育成支援事業」。先ほどありました不登校の関係でございます。不登校相談員が、区民ホールや区民センターなどの活動拠点にて、不登校制度を支援する制度で、主に小学生5年生から中学生を対象にしております。

8番目、「民間事業者を活用した課外学習支援事業」。月1万円のバウチャーで授業を受けることができる塾を中学校や区役所等で運営しております。バウチャーの対象が中学生から小学五、六年生にも今年拡大されましたことから、来年度からオンライン授業での活用ができるよう、現在業者の選定を進めさせていただいております。

9番目、「こどもサポートネット事業」。子育て家庭に「利用できる制度を見つけ提案する」サポート制度です。区役所と学校が連携し、こどもや家庭に必要な様々な制度を紹介しております。

今まで紹介しました中で、この「こどもサポートネット事業」のみ大阪市全体の制度でございます。それ以外は全て平野区の独自制度になります。

これらにつきましても、改善等ございましたらご意見をいただけますとありがたく

存じます。私の説明については以上でございます。

○大森議長

どうもありがとうございました。今、平野区を取組をご紹介いただきました。先ほど皆様の言われた平野区の教育課題と、今紹介のありました平野区を取組。重なることもあるかと思えますし、先ほどの皆様方の意見と重ねて、ご意見等ありましたら出していただけたらなと思えます。

○上原担当係長

先ほど水原委員からございました読書ノートのご意見について補足します。先ほど申しあげました通り、事業構築時に、100冊達成するために、少しでも読んで書くのではないかとの意見がありました。

小学校には、区内の全22校の図書主任の方と、地域図書館の平野図書館の館長さんが入る、「図書主任会」があり、そこで、検討いただきました。そういうことも必ずあるものの、仮に流し読みでも、少しでも、その本の題名を読書ノートに書いてもらうことだけでも、まったく読まない子どもにとっては大きな進歩だとの意見が多数を占めて、今の方法にしています。

○水原委員

子どもにとっては、字を書くの大変なので。

○上原担当係長

そうですね。字を書くの、それだけでもしていただけたら、本に目が向いてくれるのではとの意見が多かったです。私も多分読んでいないだろうと覚えることもありますが。

○水原委員

学校でも、図書館の司書さんが読んでくれて、今読んだ本も読書ノートに書いていよいよみたいな感じで低学年は進めています。

○上原担当係長

読書ノートはできるだけ表彰者を増やしたいという思いがありました。5年6年から表彰対象が3,000ページになるのも、図書主任さんからのご意見によるものです。民間の読書手帳では、小学生は全学年100冊以上で表彰です。しかし、五年生、六年生は、ほぼ表彰されません。理由は、読む本が厚くなる。本が厚くなると、よほど努力しないと100冊読めなくなります。そこで図書主任さんから、3,000ページであれば読めるのではとのご意見がございまして、1年生から4年生で区切って、5年6年は3,000ページ。中学生も3,000ページにしています。

○大森議長

今日の会議でも学力と活字関係ですね。そのことが話題になったと思います。コロナ禍で先ほど野田様からリモートとか、あるいはタブレットで学習することから、活字離れもあるんじゃないかなと。中学校では学力の低下も感じられると言われて、何人かの方からも学力低下が出ていました。

そのことに向けて今、平野区は読書ノートの運動を進めていますということですね。先ほどもありましたが、名前を書くだけでもいいじゃないと。とにかく本に触れる子を育てましょうということが平野区の出組ということですね。

いかがでしょうか。読書運動の紹介もありましたが、学力に関わって、あるいはそれ以外でも結構です。

○渡辺委員

先ほどちょっと読書ノートの部分が出たんで。コロナ前はね、新平野西小学校の場合、読み聞かせで週に何回か、ボランティアの方に来ていただいて、低学年とか中学年ぐらいまでの児童に、図書室で絵本を読み聞かせる活動がありました。しかし、コロナののち、先生も殆ど替わり、校長先生まで新しい先生になったため、そういう取り組みがなくなってしまった。こういうのは、区役所さんのほうから学校にアプローチはできないのですか。

○武市区長

新平野西小学校では、私が3年前に赴任して、初めて校長先生とお話しした時に外部から読み聞かせの人が来てくださることも、高学年が低学年に読み聞かせを行うこともされていると言われていました。ただコロナのときに学年をまたがる行事が禁止されて、コロナが終息すれば、やりたいと言われていたのは覚えています。先生が替わられても、どの先生も学力アップをしたいという思いは持っていますし、今までの学校でのノウハウもありますから、こどもたちにとっても評判が良かったというお話であれば、PTAから校長先生にお声がけいただいても全く問題ありません。

学校が読み聞かせのグループとのつながりが切れているのであれば、区役所から平野図書館や中央図書館に相談して、ご紹介いただけます。区内でも読み聞かせの活動をされている団体はたくさんあります。もちろん、地元新平野西でされている団体を知っておられたら、お声がけいただいても結構です。

○渡辺委員

そうですね。せっかく読書ノートを作っているのに、もう少し活かせたらなと感じた部分なんです。ありがとうございます。

○大森議長

コロナで途切れてしまう、人と人のつながりが途切れてしまうことでね、そういう活動が途絶えていくと。読み聞かせの中身は本を読ませて好きになる。そういう良さもありますが、人と人のつながりを作っていくということもあるのでしょうか。先ほど藤本さんの言われた人と人のつながり、地域とのつながりというものが読み聞かせにもあるのだと思います。また区のほうからも推薦していただけたらと思います。

では、ほかどうでしょうか。せっかくの機会ですので、皆様いかがですか。

○砂川委員

私事ですが、自分は元々教員を目指してしまして、教職課程も全て取ったんですけども、結局教員にはならず、親の商売を継ぎました。自分の息子が自分と全く同じ道を進んで教員になりました。教育を考えると、学力を上げることにイコール

になることは、少しどうなのかと思います。

今朝、ある記事を読んだんですけれど、将来の夢ってあるでしょう。小学生に「将来の夢何ですか」と尋ねたら、殆どのこどもは職業を答えるんですね。野球選手になりたいとか、スチュワーデスになりたいとか。だけど、欧米のこどもは「こういう生活がしたい」と答えるのが、おおよそ7割。日本でそういう答えを言う子は0.3%。

○大森議長

0.3。

○砂川委員

0.3です。職業を答えるんです。尋ねる方も、職業を前提で尋ねています。そこは違うんじゃないかなと。学力を上げることは一つの手段なので、自分の人生をどう送りたいかという考えを持つことが、まず最初の教育だと思うんですよ。そのためにどうするんだと思うんです。サッカー選手になりたいのなら、英語も勉強したほうがいいよねとか。

僕は喜連東地域ですけど、ある年、小学校の学力診断テストの数字が悪すぎて、教育委員会から人が来て指導した。何をしたかという過去問をひたすらさせた。それはちょっと違うと思います。勉強することは楽しいんだよっていうことを、まずこどもに自発的に考えさせるようにしないと、「学力を上げる」がありきの教育では、結局勉強から離れていくのではと思います。自分は教員になりたかったから、じゃあ大学行って教職課程を取らないとって、そういうふうに進路ができていったので、自分の息子もそうでした。ちょっと周りの方も少し考え方を変えた方が良いのではと思います。

○大森議長

今、砂川委員から、学力低下が一つの課題だとのお話を否定されているわけではないのですが、その前に自分の人生をどう生きていくか、どんな生活がしたいのかというもっと基本的な、自分の人生をどのように歩いていくかの問いかけが必要では

とのご意見をいただきました。

非常に根本的なご意見で、これは先ほど渡辺委員の言われた、こどもと非常に熱心に関わっていく先生が少なくなっているのではとのご意見と、砂川さんがかつて先生になりたいと思った、息子さんが先生になっていることとつながるようにも思いますね。今の先生、こどもとの接点は少ないけども、学力はなんとか上げようとして、極端な例だと思いますが過去問に向かってしまう。あるいは学校ごと国ぐるみで過去問に向かってしまう。そうすると何のための教育なのかと。最終的にはそれで勉強とむしろ離れるのではとの提起ですね。そのような提起をいただいたと思います。

学校が今抱えている課題は、今言われたようにどのように生きていくのかという生き方を巡る課題が一つ大きくあると思います。それに合わせるように、不登校になって学校へ行けなくなってしまう不登校の課題が、不登校がもう十数年前よりも倍以上小学校でも増えているという現実があります。

さらに虐待、先ほども言われていましたけども、いろんな複合的な要因の中で、こどもが傷んでいるという状況もあります。そのような学校が、あるいは園、幼稚園が持っている幾つもの課題があるわけなんですけど、今出された課題につきまして、今日オブザーバーで参加していただいている校長先生、園長先生からも少しご意見をいただけたらなと思います。いかがでしょうか。

○谷塚校長

加美中学校の谷塚です。

こどもを預かる立場として、耳がすごく痛い話もたくさんあって、これだけの様々なお立場の方が集まられた会議に参加できて、正直本当によかったなと思います。

言われたことは、まさにそうで、最初に野田さんがおっしゃられた読解力とか語彙力とか、本当にそうなんですよ。わが校では地域の元気アップ事業があり、ボランティアの方には本当に申し訳ないぐらい、様々なことをやっていただいています。例えば語彙力を増やすというのが、今までの点数だけの学力じゃなくて生きるための学

力として大事ですし、それがベースにないと、物事を考えることもできません。学校全体としては考える力の育成をテーマとして、ずっと行っています。そのための語彙力をつけるために、3学年全員に週に1回か2回、朝日新聞の天声人語を書かせています。もうとにかく「書く」ことをテーマに行っています。2年目になったため、卒業生にも、感想を書いてもらいました。全員ではないですけども、文章を書くことが苦にならなくなったとか、国語の点数がなぜか上がったなど、前向きな意見が割と多いです。本校は、中国やフィリピン、ベトナムの方も多く、日本語がまだまだな子もいますが、一生懸命取り組んでいます。その子らは正直、最初は写しているだけで意味は分かっていないと思いますが、取り組むことで変わっていきます。加美中学校に来て3年になりますが、語彙力が不足していると思い、この取り組みを始めました。

その上で先生方をお願いしているのは、一つの授業で絶対1回は「ん？」ってハテナが浮かぶような考える場面を絶対に作って欲しいと。先生方にも、私がめざす授業を体験してもらうために、大阪市の「がんばる先生支援」制度を活用して、昨年度から、例えば起業家になる子が一番多いのは福井県なのですが、福井県に出張に行ってもらってどんな授業を、どんな取組をしているのか体感してもらっています。

今年も約20名の先生に行ってもらいましたが、様々な情報を調べて行っていたのですが、正直、当たり外れはあります。これなら本校の先生の方が良い授業をしているのではと思うこともあります。しかし、私が先生たちをお願いしたのは、こどもが自由に発言できる授業をして欲しいのです。遠慮せずに間違えて良いから発言する。それを先生がしっかり拾って、周りの子の意見も聞きながらお互い考えながらどんどん授業をこどもたちが進める。先生方があまり話さない授業をお願いしています。実際にそのようにされている学校にも10人ぐらい行ってもらいました。見て来られた先生は、刺激を受けてそうした授業を進めようとして頂いています。

渡辺委員がおっしゃられた、先生方の関わりの部分で、私30歳ぐらいのときに住之江区のある学校に赴任しました。生活指導が大変な学校で、そのときには荒れもすご

く経験しました。荒れた生徒の対応を考えましたが、中学校に上がってくる前に正直、先生を信用していないんですね。小学校の先生方も大変だったと思う。2校あって、それぞれ3クラスずつでしたが、全クラスいわゆる学級崩壊の状況で、両校とも担任の先生が倒れて教頭先生が担任を行っていました。

しかし、何とか対応しないとイケません。中学校の場合、部活動があります。部活動の先生は担任の先生以上に生徒に身近な存在でもあります。だから、悪い悪いって聞いていたこどもの中には、部活動では一生懸命に頑張る子も多くいました。我々も毎日、保護者対応等があつて、学校を出るのは21～23時になっていましたが、何とか小学校にも足を運んで、出前授業をしたり、校庭キャンプをしたり、夏祭りにお店を出したりしました。私の教科は理科でしたので、校庭キャンプに天体望遠鏡を持って行って、木星や土星などを見せました。小学生には「星のおっちゃん」と言われていました。そのこどもたちが中学校に入学してきたら、小学校の時に関係ができていたので、話したことは殆どなくても顔見知りというだけで、こどもたちの感じがそれまでと全く違いました。それで一気に学校が落ちつきました。

その経験から、それから赴任した学校でも、同じように祭りがあつたら店を出していました。効果は高くて、ずっとコロナ前まで、私が居なくなったあともされてきました。

しかしコロナがあつて、なかなかね。今、管理職の立場になって、今年度は割と運動会や修学旅行などが通常通りできるようになったため、やりたいとは言いたいのですが、休みの日や夜遅い時間なので、立場的に逆にやろうと言えなくなった。そういう部分での距離感はどうなのかなと思います。本日皆様方のお話をお聞きして、ぜひ学校でも今言われた意見を何らかの形で伝えていきたいと思っています。

それと、読書ですね。元気アップさんが図書館を綺麗に整備していただきました。読み聞かせも、先ほどお話しました天声人語をボランティアさんに録音していただき、聞かせようと計画しています。また、それぞれの学年の廊下に小さい書架を設置し、

新刊の本を見出しも付けて置いています。図書館に行かなくても廊下で目に見える形で、そんな工夫も教員と元気アップさんと協力しながら進めています。

○大森議長

今、加美中学校の谷塚校長先生より、一つは読書に関わって話していただいて、天声人語を写す取組を紹介いただきました。天声人語は我々大人が読んでも少し難しいものですが、意味が分からなくても中学生がそういう言葉に触れていくことが非常に大事なことだと思います。また渡辺委員から提起されていた、荒れていた子どもたちとの関係の構築の話をしていただきました。コロナで取り組みが切れましたが、今日渡辺委員のお話を聞いて、また明日職場で、職員にも提起していきたいという言葉頂くことができました。続きまして、小学校の方はいかがでしょうか。

○兵庫校長

川辺小学校校長の兵庫と申します。

幹事校長の都合が悪くて代理で出席させていただいております。

砂川委員様のご意見で、自分の人生をどう送るのか、そのためにどうすればよいのかということ、教えるのが小学校の段階で必要なのでは、教育の本質なのではとのご意見をお聞きしました。自分の想いも同じです。

ただ、学校はどんな現状に置かれているかという、新聞報道等では、それこそ学力調査の平均正答率が何位でしたとか、学校ホームページで紹介するのも、大阪市平均に比べて何ポイント上です下です、全国平均と比べて何ポイント上でした、そういう数値が独り歩きしているところがあるので、現場としては、それを無視することも出来ません。子どもたちにきちっと点数を取れるというか、回答できる力をつけていくことは必要だと思っています。ただ本当に砂川委員がおっしゃっていたことが根本に流れている。だから私は先生方に「学校に来て楽しい」というアンケート結果の数字を増やそうと言っています。授業がよく分かるのは当然ですけど、「来るのが嫌」という学校では駄目だと言うことを伝えているつもりです。同じように考えていただ

いている方が多くここに居られて、とても心強く思いました。

また、私はICTによく関わっています。水原委員から、PDFとかで配信できないかというご意見がありましたが、これは学校の取組ですぐにできると思います。紙で配っていても、かばんの底でくちゃくちゃになって出さないことはよく聞きます。そこで、PDFにして配信する。これは提案して行けば、改善できると思います。

私もずっと前に教頭でいて、平野区に戻ってきて3年目ですが、ひらちゃんノートの取組、確かに適当に書く子もいてるかも分からないんですが、表彰される機会は、こどもたちは多くありません。競争して1番、2番、3番であれば表彰されることはあります。しかし、このひらちゃんノートの取組は、100冊読めば必ず表彰されるんですよ。だからやりなさいと、声掛けしています。誰かとの競争ではなくて自分がやるかやらないかの競争になるので、表彰されることは非常に励みになります。いくら頑張っても順位競争の場合、自分より上の子がいたらもらえない。そういう表彰が多いです。しかし、これは自分がやればもらえる。児童が表彰されることは、こどもたちの自尊感情を伸ばすために非常に良いことなので、ぜひまた区長さんに本校に来ていただいて、表彰状を渡していただけたらありがたいと思っています。

図書館のボランティアの方も含め地域と、学校の先生との接点が少なくなりました。コロナの間は学校に出入りいただけず、参観も地域交流もできない。逆にこどもたちも外に出れない。遠足もないという年もありました。修学旅行に行けるか行けないかぎりぎりの選択で日にちをずらして行った年もありました。

先生の意識については、私はあまり変わってないと思っており、交流ができるようになったら、どんどんやっていきたい。図書ボランティアによる読み聞かせもしていただきたい。本当に来ていただいてありがたいと思います。

川辺小学校の実情で言いますと、働き方改革もありますが、先日の川辺の祭りの時に、神輿を担ぎに出てくださいと先生方をお願いしたら、男性は少なかったので私も出ましたが、女性は十何人神輿担いでくれました。夜店があつたら、こどもを連れて

きてもらったりもしました。コロナ前と意識的にはそんなに変わっていないのでは、というのが本校だけかも知れませんが、自分の今の感想です。

働き方改革は確かに必要で、闇雲に何でもかんでも出てきなさいとは管理職の立場として言えませんが、ここに行ったらこどもの素顔も見れるし保護者の方の違う表情も見れるから良いのではとの声かけはしています。

あと不登校、不登校については区役所が色々な施策をやってくださっていて、また、地域の方も行ってくださるし、こどもサポートネットのスクールソーシャルワーカーも2週に1回は必ず来て、家庭訪問に行こうと声かけしてもらっています。民生委員、主任児童委員さんも、アトランダムに声掛けに行っていていただき、非常に心強いサポートとなっております。これからもよろしくお願いいたします。

○大森議長

不登校に関わっては学校が楽しいと感じればとの渡辺委員の提起を受けました。兵庫校長からは、先生の意識は、コロナ前とそんなに変わっておらず、先生がこどもが好きで、こどもは学校が楽しいとなれば、もっと変わっていくだろうと。それには、校長先生の関わりもあるので、各校の校長先生にもお願いしてみたいかという話かということですね。

先生方はきっとこどもが好きで先生になっておられますから、こどもとそういう活動をすることが楽しい、神輿を担いでみたいと思う先生もたくさんおられるので、そういう学校の雰囲気は大事かなと。また水原委員のPDFの話は、学校も助かりますので、校長会等で提起してみますとのこと。スマホにPDFで入ってきたら、見落とすことは少ないということですね。この取組も進めていただけたらと思います。

それでは、幼稚園の園長先生からはいかがでしょうか。

○堂前園長

加美北幼稚園の堂前でございます。

昭和、平成、令和と幼稚園の教員それから主任、管理職を経験してここまで来てい

ます。今、平野区の教育課題というより、大阪市の全体の流れですが、少子化等で公立幼稚園の園児数が年々減ってきていることがあります。それに加え、配慮を要する園児の数が本当に増えてきていると思います。保護者の方も、こどもさんのことで悩まれて、こども相談センター等に相談に行きますが、施設は本当に一杯でどこも空いていないのが実態です。やっとなら探したところが奈良県で、そこの療育センターに通っている児童もおられます。

配慮を要する園児を抱える公立幼稚園としては、本当に一人ひとり適切な支援が必要となります。

それから、人との関わりを楽しむこどもが本当に少ないなと思っています。コロナ禍で人との間は空けるとか、3歳、4歳、5歳児でさえ、ご飯食べる時は小学校のように前を向いて、2メートル開けて黙食で食べます。3、4、5歳のこどもを、何とか感染を防ごう、命を守ろうとしました。幼児ですから、きちっと自分でマスクを着けたり外したり、またきちっとすることを確認しないといけないという時代を過ごしてきました。コロナ禍まっただ中を過ごしたこどもが今3、4、5歳児として入ってきてます。家での関わり、親との関わりでさえ少ないですし、まして友だちとの関わりはありません。3、4、5歳のこどもたちがやっとなら幼稚園に来て、人との間、友だちとどうやって遊んだらいいかなとか、どういうふうに言葉をかけたらいいいのかなとか、そんな人との関わりを楽しむことが本当に少なくなってきています。

先日、クレオ大阪南で、平野区の公立幼稚園5園の5歳児が集まって、「うたごえひびけ ひらのっこ」と題しまして合唱をいたしました。副区長様それから上原様にも来ていただき、かわいいこどもたちの歌声をたくさんのお客様に披露させていただきました。少ない人数で歌を歌うことが園では毎日あります。しかし、5園集まるとやはり大きな集団となります。平野区は本当に広い区ですので、加美北幼稚園が瓜破北幼稚園のところへ行って、それから長吉幼稚園とか長吉第二幼稚園、六反幼稚園も瓜破北幼稚園に行って、合唱を1回練習しようということになり、大勢の中で歌う

経験ができたと思っています。

大勢の友だちと一緒に歌を歌い合わせ、そういう楽しさとか、気持ちよさとかを、味わうことができたかと思います。幕が下りても保護者の方々の拍手が鳴り響いていることを、しっかりと子どもたちが体験できたかなと。そういう経験をやはり幼稚園もどんどんやっていかないといけません。もともと、とても行事が多くいろいろありますけれども、そういう中で過ごして、園児は育ちます。

様々な体験をさせてあげたいので、これからも積極的に進めていきたいと思っています。以上です。

○大森議長

ありがとうございました。今日、皆さんの話をまとめるかのように言っていただいたと思います。

一つは、配慮を要するこどもがやはり増えてきている。様々な支援を要する子がいる。幼稚園でも多くおられますと。また、心配だと思うのが、こどもが人との関わりを楽しむ方法が分からず、できなくなっている、コロナの持ってきた怖さです。それを私たちがもういかに取り戻していくかということが大事だと思いました。

また5つの園が集まって歌声を響かせると、そのことがまたつながりにもなりまして。幕が下りても、保護者の拍手はずっと続いていましたということをお話ししていただきました。

今日、皆様方に集まっていただいて平野区の教育の課題についてお話していただきました。今日のお話、校長先生のお話などもお聞きしましても、皆様方が言えば、話し合えば、平野区の教育は変わるのだと私は思いました。これからもこの会で皆さんの声を出していただくことが、きっと平野区の教育がさらに前進していくものになると思いますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

本日、例えば藤本委員のミツバチの話とか、あるいは加賀委員の勉強嫌いだっただけで頑張ってきた話とか、浦崎先生の話などをもっと聞かせていただけたらよかつ

たと思っておりますが、私の進行のまずさでもう時間が来ております。今日出していた課題を、また皆さんで力を合わせて、より良い平野区にしていけたらなと思います。

最初に言われていましたように地域ではやはり人とのつながり、今の幼稚園の子でもやはり人とのつながり。植物が太陽の光を浴びて育ちますように、人は人の光を浴びて人とのつながり、温かさの中できっと人になっていくんだろう、育つんだらうと思います。学力をと我々はすぐに言いますが、その前に、そのようなつながりを大切にする生き方やその人の人生のありようを考えるような教育が、平野区の教育になればというふうに思いました。

皆様方、すでに、予定時間は過ぎておりますが、何かどうしても言いたいという方はおられますか？よろしいでしょうか。

それでは事務局に進行をお返ししたいと思います。

○樋口政策推進課長

大森議長、野田副議長、円滑な議事の進行をいただきましてありがとうございます。また委員の皆様、様々な貴重なご意見いただきまして、まずはこういう場で共有できたことが、大きいかなと思っております。ありがとうございました。

これからも平野区の教育施策にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

これをもちまして平野区教育会議を終了いたします。ありがとうございました。